

卷一「さんねん坂」



京都府立総合資料館蔵

【原文】

さんねん坂 又さんねい坂共云

こゝをさんねん坂といふは。大同三年に引ならしたるゆへ。三年坂といふなりともいへり。又こやすの塔につゞきたる坂なるゆへ。産寧坂といふともいへり。産はうむとよみ。寧はやすきとよむ。いづれのせつも一理は侍るなり。かやうの事はじゃうのこはきかたのかちたるべし

尼といひびくにといへはこのさかの

名はかはるともなしやありのみ(廿五才)

【校訂本文】

さんねん坂 又さんねい坂とも言う。

「こをさんねん坂と言ふは、「大同三年（注1）に引ならしたるゆへ、三年坂と言ふなり」とも言へり。又「子安の塔（注2）に続きたる坂なるゆへ、産寧坂と言ふ」とも言へり。産は「うむ」と読み、寧は「やすき」と読む（注3）。いづれの説も一理は侍るなり。かやうの事は、情の強き方の勝たるべし。

尼と言ひ比丘尼（注4）と言へばこの坂の

名は変わるともなしやありのみ（注5）

【注】

(1) 八〇八年。

(2) 現在は清水寺本堂南の泰産寺にあるが、もとは仁王門前にあり、

子安観音を祀る。婦人の安産祈願塔としての信仰があった。

(3) 漢字の「産」と「寧」には、それぞれ「うむ」と「やすき」の意

味（訓読み）があるということ。

(4) 比丘尼は女子の出家者のこと。尼と同じ。

(5) 「梨」の異名を「ありのみ（有実）」という。「梨」が「無し」に通

ずるための忌み詞であるが、この場合「変わるともなし」（変わる

こともない）に「無し（ない）」と「梨」が掛詞となっている。

【現代語訳】

さんねん坂 または「さんねい坂」とも言う

「こがさんねん坂と言われる由来は、「大同三年に坂をなだらかにして造成したので、三年坂と言うのだ」と言われています。また「子安の塔に続いている坂なので、産寧坂と言う」とも言われています。産は「うむ」と読み、寧は「やすき」と読みます。どちらの説も一理はあります。このように説が分かれるような場合は、自説を曲げない強情な人の説がきつと勝ち残るでしょう。

尼僧のことを「尼」と言ったり「比丘尼」と言ったりするけれども違いはないように、この坂は「さんねん坂」とか「さんねい坂」とも呼ばれるが、「梨」を「ありのみ（有実）」とも言うように、呼び名は変わってもおなじである。

（藤原英城）